

「天人五衰」

岩佐 善夫

仏教には「^{てんにん ごすい}天人五衰」という話があることを学びました。我々が目指す天人は、天界の快樂に満ちた世界で長く悠々と暮らしていても、^{おとろ}五つの衰^{すがた}えの相をあらわして転落するときがある。そのときには、とてつもない苦しみに襲われるという話です。

この話が「わたしの生活、大丈夫か？」という問いを与えてくれました。

東京に住む娘から、生後7ヶ月の子ども、わたしの孫を連れて帰るという連絡が入りました。それだけでなくオムツを用意しておくことも頼まれました。早速ドラッグストアで指定された銘柄の紙オムツを1週間分購入しました。その時、今更ながらに思ったことが、オムツもマスクも手袋も、数え切れないほど多くのモノを使い捨て、それを当たり前としているわたしの生活です。

技術の発達は、使い捨てる方が便利で効率もよいという製品を多く作ってくれました。そして洗うことも片付けることも必要としない、「天人」のような生活を実現しました。しかし、いいことだけでなく、大量のゴミ、そしてその処理に伴う環境破壊という問題を生み出しました。

問題はそれだけではありません。人までも使い捨てるという問題があります。お年寄り「私も使い捨て」と歎かれ、若い人は「いつ解雇されるかわからない」と使い捨てられる不安を訴えます。

私たちの生活、実に危うい、天人の転落を思わせる生活だと思ったのです。

釈尊は、モノも人のいのちも、一切が無量無数の縁によってあると教えてくださった。無量無数の縁が無ければ存在しないのだから、一切は有ること難し＝有り難いと教えてくださった。そのことを忘れて使い捨てて、それを当たり前としている。そんなわたしの生活を深く問い直す必要があると思っ